

昭和38年2月

冬期農業基本調査結果

1 戦前に戻りつつある農家数

本県の農業事業体数は、昭和38年2月1日現在で208,224戸本県総世帯数の約50%である。5年前の8月1日現在の農業事業体数は211,559戸さらに10年前では212,957戸となつているから5年間に1,398戸10年間で4,733戸の減少である。

減少した農家を経営規模別にみると第2表でもわかるように1反～1町までの農家が9,410戸の減少、このうち実際に離農した戸数は4,733戸これら農家は国内経済事情特に商工部門の急速な回復に伴つて、他の産業に移つていった者、又戦後の食糧事情の好転などにより都市への復帰などであると思われる。残りの4,677戸は自己の経営規模を拡大したり、兼業などをして現在も農業を営んでいる農家である。

昭和24年8月の農家数は221,271戸にふくれ上つたが昭和28年の調査では212,957戸となりこれに対し10年後の昭和38年には208,224戸と減少を示し、このまま推移

第1表 農業事業体 (単位 戸)

	農家数	その他の農業事業体数
昭和28年	212,638	319
昭和38年	208,923	201
増減	△ 4,615	△ 118

△は減を示す。

第2表 耕地広狭別事業体数 (単位 戸)

	総数	5畝～1反	1反～3反	3反～5反	5反～1町	1町～1.5町	1.5町～2町	2町～3町	3町以上
昭和28年	212,957	4,636	26,997	26,910	63,698	52,283	26,836	10,892	705
昭和38年	208,224	4,952	24,412	25,363	58,420	53,762	28,699	11,897	719
増減	△ 4,733	316	△ 2,585	△ 1,547	△ 5,278	1,479	1,863	1,005	14

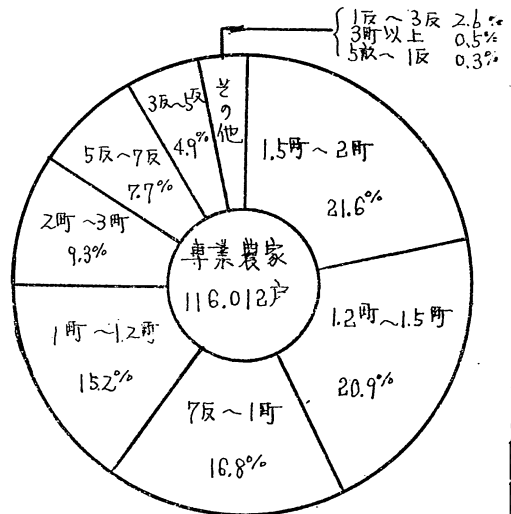
△は減を示す。

するともう少しで昭和21年即ち戦前の農家数198,000戸に戻るものといえる。

この減少農家を郡別にみると久慈郡、那珂郡がもつとも多くこれは本県の工業地帯である日立、勝田に近いため減少したものと考えられる反面東茨城郡は農家が増加しているがこれは県下で一番開拓地の多い関係からと思われる。

専業兼業別農家数

専業農家 (広狭別)



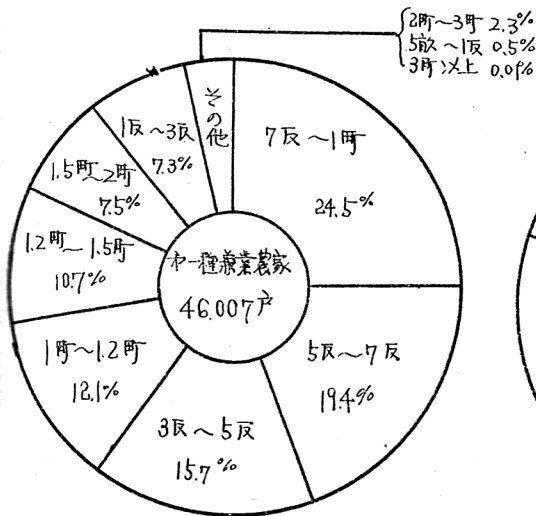
2 減少する専業農家, 増加する兼業農家

本年の農家数 208,023 戸を専業兼業別に分けてみると専業農家が全農家の55.8%116,012戸, 第1種兼業22.1%46,007戸, 第2種22.1%46,004これを昭和29年に比較すると専業農家32,637戸の減第1種13,711戸, 第2種14,398戸と増加, しかし専業農家といつても耕地をたくさん

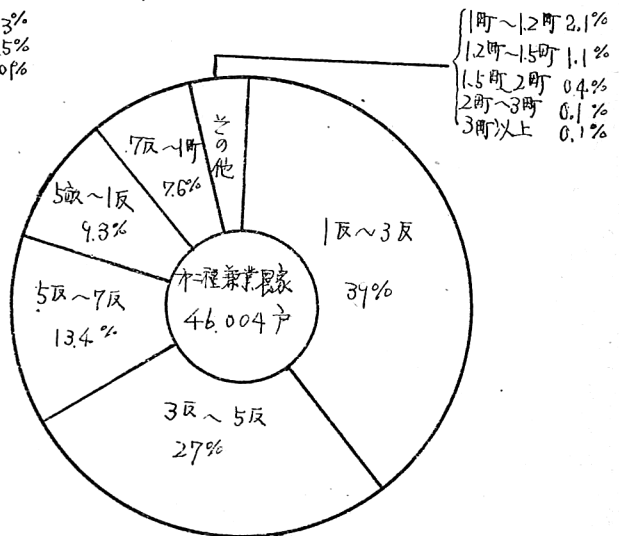
もち農業をやっている家ばかりでなく, 小反別を耕作している農家もあり, 又兼業農家であつても, 専業農家以上の耕地をもち農業を営んでいる農家もある。このような農家はただ調査の約束上兼業農家になつているだけで実際には専業農家とほとんど変りがない農家も数多くあると考えられる。

経営耕地面積に対する昭和38, 29年の農家戸数割合をみると第3表のとおりである。

オ=種兼業農家(広狭別)



オ=種兼業農家(広狭別)



第3表

(単位 戸)

	総 数		専 業		第1種兼業農家		第2種兼業農家	
	昭 2 9	昭 3 8	昭 2 9	昭 3 8	昭 2 9	昭 3 8	昭 2 9	昭 3 8
総 数	212,551 100.0	208,023 100.0	148,649 69.9	116,012 55.8	32,296 15.2	46,007 22.1	31,606 14.9	46,004 22.1
5 反 未 満	57,817 100.0	54,576 100.0	21,932 37.9	9,114 16.7	9,895 17.1	10,813 19.8	25,990 45.0	34,649 63.5
5 反 ~ 1 町	63,345 100.0	58,414 100.0	45,890 72.5	28,565 48.9	12,700 20.0	20,172 34.5	4,755 7.5	9,677 16.6
1 町 ~ 2 町	79,776 100.0	82,452 100.0	70,034 87.8	66,915 81.2	8,908 11.2	13,896 16.8	834 1.0	1,641 2.0
2 町 ~ 3 町	10,963 100.0	11,890 100.0	10,197 93.0	10,786 90.7	745 6.8	1,072 9.0	21 0.2	32 0.3
3 町	650 100.0	691 100.0	596 91.7	632 91.5	48 7.4	54 7.8	6 0.9	5 0.7

※ 専 業 農 家……世帯員のうちで自家農業以外で収入のある仕事をしている人が1人もいない農家
兼 業 農 家……世帯員のうちで自家農業以外で収入のある仕事をしている人が1人以上いる農家
第1種兼業農家……農業収入が兼業収入より多い農家
第2種兼業農家……農業収入より兼業収入が多い農家

3 冬作物は大麦小麦が主力

本県の麦作付農家数の比重は1町～2町までの層に集中し、総作付農家数の48%である。これからみても麦作が上層にあるのは耕地面積の重心がこの層にあることと、他にこれに代る転作物の少ないことが考えられる。大麦、小麦、裸麦、ビール麦を除いては、年々減少している。これを経営耕地広狭別にみると第4表のとおりである。

主要作物作付面積の比較

	大 麦	小 麦	1町以上 2町未満	2町以上 3町未満
昭和28年	43.2%	41.7%	59%	28%
昭和38年	37.2%	45.2%	12%	3%

14%

4 農業の機械化が著しい

本県における農機具の普及台数の推移と農家100戸当り所有台数は、昭和38年の普及台数を昭和28年のそれと比較するとその間に顕著な伸びがあり、これを機種別にみれば第5表のとおりである。このなかで耕うん機の普及度は29台である。このように耕うん機など農機具の普及は農村における労働力の流出及び過重な農作業を機械によつて補い又は軽減しようとするもので一層助長されるものと思われる。

昭和28年との増減は第6表のとおりである。

第4表

階 層 別 作

	総 数		5畝～1反		1反～3反		3反～5反		5反～7反	
	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%
大 麦	32,236	100.0	59	0.2	652	2.0	1,428	4.4	2,257	7.0
小 麦	39,184	100.0	102	0.3	1,119	2.8	2,288	5.8	3,214	8.2
ビ ー ル 麦	11,101	100.0	2	0.0	55	0.5	188	1.7	451	4.1
裸 麦	1,254	100.0	2	0.2	28	2.2	56	4.5	95	7.6
な た ね	2,867	100.0	5	0.2	46	1.6	109	3.8	171	6.0

第6表

農 用 機

	トラクター（乗用型）				ハンドトラクター（テラー型）			
	個人所有		共同所有		個人所有		共同所有	
	農家数	台数	農家数	台数	農家数	台数	農家数	台数
昭和28年	—	6	—	5	—	226	—	14
昭和38年	139	139	289	38	58,776	59,169	3,345	1,030
増 減	—	133	—	33	—	58,943	—	1,016

第 5 表

(単位 台)

	普 及 台 数		農 家 100 戸 当 り 台 数	
	昭 和 28 年	昭 和 38 年	昭 和 28 年	昭 和 38 年
電 動 機	31,879	43,961	14.9台	21.1台
発 動 機	25,074	74,437	11.7	35.7
動 力 耕 転 機	251	60,376	0.1	29.0

付 面 積

(単位 町)

7反 ~ 1町		1町~1.2町		1.2町~1.5町		1.5町~2町		2町 ~ 3町		3 町 以 上	
4,684	14.5	4,531	14.1	6,588	20.5	7,743	24.0	4,031	12.5	264	0.8
6,023	15.4	5,397	13.8	7,637	19.5	8,775	22.4	4,317	11.0	313	0.8
1,274	11.5	1,458	13.1	2,485	22.4	3,211	28.9	1,806	16.3	169	1.5
195	15.6	171	13.6	259	20.7	280	22.3	152	12.1	15	1.2
361	12.6	385	13.4	586	20.4	744	26.0	420	14.6	39	1.4

械 台 数

電 動 機				発 動 機			
個 人 所 有		共 同 所 有		個 人 所 有		共 同 所 有	
農 家 数	台 数	農 家 数	台 数	農 家 数	台 数	農 家 数	台 数
—	31,794	—	85	—	25,024	—	50
40,716	41,117	8,830	2,844	69,494	69,850	139,974	4,587
—	9,323	—	2,759	—	44,826	—	4,537

5 増加の著しい家畜、家きん

乳用牛、豚、にわとりなどの家畜は食生活の向上に伴つてめざましい増加を示しているのに対し、役畜は農家における労働力の流出により、これにかわる動力耕うん機の大巾な増加のため年々減少の傾向にある。

これを昭和28年に比較してみると、乳用牛14,741頭の増、役肉用牛3,602頭の減、豚131,267頭の増、にわとり1,070,593羽の増となり、飼育農家数、飼育頭数は第7表のとおりである。

過去3年間の1戸当りの飼育頭羽数は第8表のとおりである。

第7表

(単位 戸、頭)

	乳用牛				役肉用牛				豚		にわとり	
	2才未満		2才以上		2才未満		2才以上		飼育農家数	飼育頭数	飼育農家数	飼育頭羽数
	飼育農家数	飼育頭数	飼育農家数	飼育頭数	飼育農家数	飼育頭数	飼育農家数	飼育頭数				
昭和28年	4,065				67,497				67,090		1,018,848	
昭和38年	3,750	5,315	5,965	13,491	15,536	16,735	44,862	47,160	60,066	198,357	127,407	2,089,441
増減	14,741				△3,602				131,267		1,070,593	

△は減を示す

第8表

家畜、家きん、1戸当り飼育頭数

(単位 頭)

年次	乳用牛	1戸当り頭数	役肉用牛	1戸当り頭数	豚	1戸当り頭数	にわとり	1戸当り羽数
昭和36年	13,124	0.06	74,110	0.4	137,930	0.7	1,810,648	9.0
昭和37年	15,741	0.08	71,458	0.3	203,127	1.0	2,240,532	11.0
昭和38年	18,806	0.09	63,895	0.3	198,357	0.9	2,089,441	10.0